

# 第4章 目黒区環境マネジメントシステムの取組み

事業者等が自主的に環境保全に関する取組みを進めるにあたり、環境方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくための仕組みを「環境マネジメントシステム」といいます。

本章では、目黒区の環境マネジメントシステムである「目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐろエコ・プランⅡ）」における2015（平成27）年度の取組み実績と、取組みに対する評価について報告します。

## 目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐろエコ・プランⅡ）

～低炭素社会実現に向けた目黒区率先行動計画～

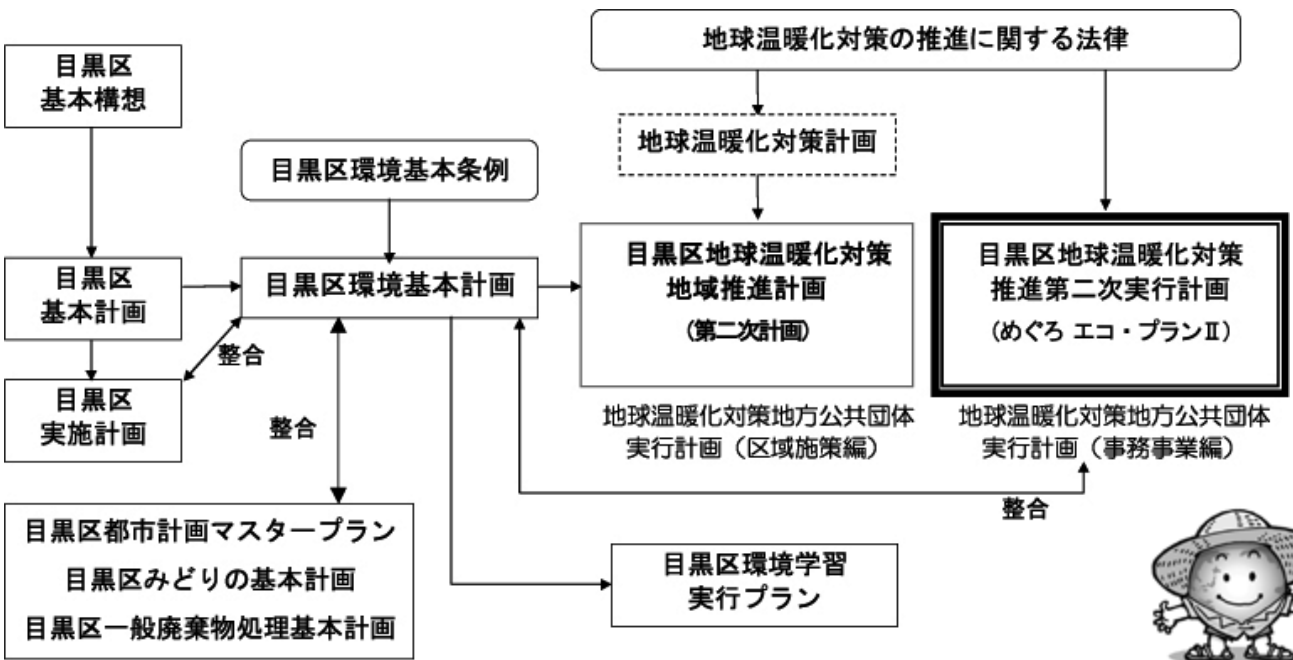
区は、最も身近な自治体として、また区内における大規模な事業所の1つとして、率先して地球温暖化対策に取り組んでいます。

2009（平成21）年4月に、それまで取り組んできた「ISO14001<sup>1</sup>」と「新エコ・アクションプログラムめぐろⅡ<sup>2</sup>」を発展的に解消し、区有施設のすべてを対象とした「目黒区地球温暖化対策推進実行計画（めぐろエコ・プラン）」を策定し、2014（平成26）年3月に第二次実行計画として改定しました。

この計画は、低炭素社会実現に向けた温室効果ガス排出量を削減するための総合的な仕組みであるとともに、循環型社会実現に向けた環境負荷低減に資する取組みの推進を図るもので、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第20条の3第1項に規定する「地方公共団体



＜めぐろエコ・プランⅡ ポケットブック＞



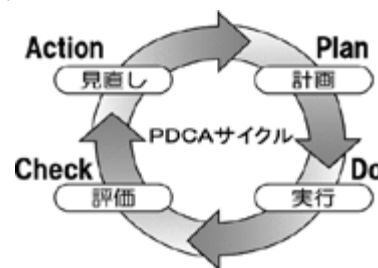
＜目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐろエコ・プランⅡ）の位置づけ＞

<sup>1</sup> ISO14001：環境に関する国際標準規格。

<sup>2</sup> 新エコ・アクションプログラムめぐろⅡ：2006（平成18）年3月に策定した目黒区独自の「地球温暖化対策推進地方公共団体実行計画」。

## 「目黒区地球温暖化対策推進第二次実行計画（めぐろエコ・プランⅡ）」

- [目 標] 区の事務事業に伴って排出される温室効果ガス排出量・エネルギー使用量を、2012（平成24）年度を基準として、目標年度の2018（平成30）年度において5%以上削減します。
- [期 間] 2014（平成26）年度から2018（平成30）年度までの5年間
- [対象範囲] 総合庁舎、庁外施設等を含めた区有施設のすべて  
（ただし、区営住宅等個別の利用者が光熱水費を負担している施設は除く）
- [取 組 み]
- ・大規模施設における省エネルギー活動の推進
  - ・小規模施設における事業特性を活かした省エネルギー活動の推進
  - ・日常業務でのエコオフィス活動の推進
  - ・省エネルギー機器の段階的導入
  - ・新築、改築、改修時における省エネルギー・再生可能エネルギー設備等の導入等
  - ・低燃費車の導入
  - ・温室効果ガス吸収作用の保全・創出
- [管理対象]
- ①温室効果ガス排出量の算定対象項目（重点管理対象）
    - ・電気、ガス、水道（下水道）の使用量（清掃工場等の他の施設からの熱等の供給を含む）
    - ・化石燃料の使用量（ガソリン、LPG、軽油、灯油、重油、LPG（プロパンガス）の使用量）
  - ②温室効果ガス排出量の算定対象項目以外の管理対象
    - ・用紙の購入量（使用量）
    - ・ごみの排出量
    - ・グリーン購入の推進
    - ・緑化の量（緑化面積）
    - ・省エネルギー機器等の導入量
    - ・低燃費車等の導入実績



本計画では、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し）のPDCAサイクルによるマネジメントシステムを活用し、組織的な進行管理と継続的改善を行います。

## 2015（平成27）年度の取組み結果

区有施設のすべてを対象として、低炭素社会実現に向けた総合的な温室効果ガスの削減と循環型社会実現に向けたエネルギー使用量の削減やごみの減量等環境負荷の低減の取組みを進めました。

### ● 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量の削減

#### ■ 温室効果ガス排出量・エネルギー使用量の状況

省エネルギー機器の導入及び節電に取り組んだこと、並びに暖冬であったことなどにより、温室効果ガス（二酸化炭素換算）排出量原単位は、2012（平成24）年度（基準値）と比較して1.4%の減少となりました。また、エネルギー（原油換算）使用量原単位は、2012（平成24）年度（基準年）と比較して1.3%の減少となりました。

温室効果ガス（二酸化炭素換算）総排出量について排出源別に見ると、電気（66.1%）、次いで都市ガス（27.8%）となっており、上位2項目で94%を占めています。このことから、温室効果ガスの排出量の削減には、電気・ガスの使用量を削減することが重要であるといえます。



<温室効果ガス（二酸化炭素換算）排出量原単位>

	2012 (平成24)年度 (基準年)	2014 (平成26)年度	2015 (平成27)年度
排出量原単位 (単位：t-CO <sub>2</sub> /千㎡)	43.071	42.850	42.452
対基準年度比		-0.5%	-1.4%

<エネルギー（原油換算）使用量原単位>

	2012 (平成24)年度 (基準年)	2014 (平成26)年度	2015 (平成27)年度
使用量原単位 (単位：KL/千㎡)	23.415	23.281	23.109
対基準年度比		-0.6%	-1.3%

<電気、都市ガス、水道、下水道、ガソリンの使用量内訳>

区分	2012 (平成24) 年度 (基準年)	2014 (平成26) 年度	2015 (平成27) 年度	対基準年度比
電 気 (千 kWh)	32,081	32,041	31,714	-1.1%
都市ガス (千 m <sup>3</sup> )	2,862	2,703	2,636	-7.9%
水 道 (千 m <sup>3</sup> )	793	778	737	-7.1%
下 水 道 (千 m <sup>3</sup> )	799	785	733	-8.3%
ガソリン (千ℓ)	38	36	54	+42.1%

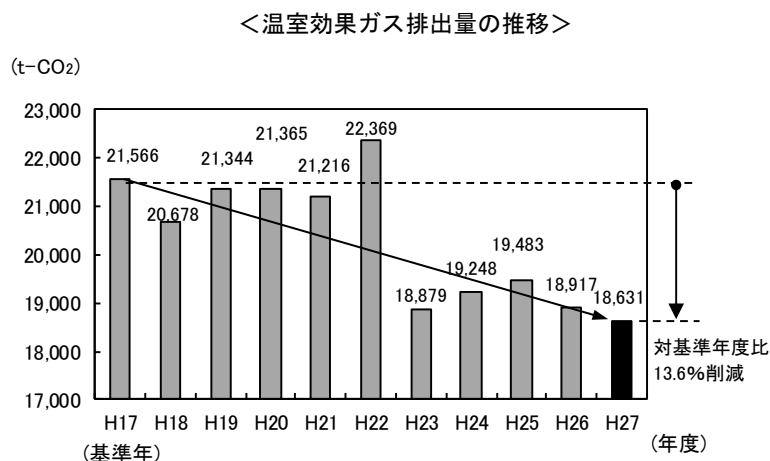
\* ガソリンは使用量ではなく購入量



トピックス

温室効果ガス排出量の推移  
(前計画との比較)

めぐろエコ・プランⅡでは、温室効果ガス総排出量・エネルギー総使用量を区有施設の総延べ床面積で割った「千㎡あたり」の原単位により削減率を計算しています。そのため、温室効果ガス排出量については、第一次実行計画の基準年度2005（平成17）年度との比較も行います。



## ■ 温室効果ガス削減に向けた取組み

### ◆ 省エネルギー・再生可能エネルギー設備の導入

2015（平成27）年度も2014（平成26）年度に引き続き、区有施設において、改修時に省エネ性能の高い照明や空調機等の省エネルギー機器の導入等を行いました。

#### 施設の新築・改築・改修時における省エネルギー・再生可能エネルギー設備の導入等

施設名	導入した省エネルギー・再生可能エネルギー機器
目黒区美術館	高効率熱源機器、高効率パッケージエアコン
駒場体育館	LED照明、スイッチ回路の細分化
碑文谷体育館	LED照明、LED誘導灯、スイッチ回路の細分化
大岡山西住区センター	LED照明、スイッチ回路の細分化
上目黒住区センター	LED照明、LED誘導灯、スイッチ回路の細分化、人感センサー、高効率パッケージエアコン、集中管理コントローラー、全熱交換器
区営碑文谷アパート	太陽光発電設備、LED照明、スイッチ回路の細分化、高効率パッケージエアコン、全熱交換器、節水器具、トイレの擬音装置、高効率給湯器
目黒区粗大中継所	太陽光発電設備、LED照明、LED誘導灯、スイッチ回路の細分化、高効率パッケージエアコン、全熱交換器、節水器具、高効率給湯器
大橋えのき園	LED照明、LED誘導灯、スイッチ回路の細分化
駒場児童館	LED照明、スイッチ回路の細分化
興津自然学園	LED照明、スイッチ回路の細分化
ハケ岳林間学園	LED照明、スイッチ回路の細分化
八雲小学校	LED照明、スイッチ回路の細分化、人感センサー
油面小学校	LED照明、スイッチ回路の細分化
五本木小学校	LED照明、LED誘導灯、スイッチ回路の細分化
原町小学校	LED照明、スイッチ回路の細分化
不動小学校内児童施設	LED照明、スイッチ回路の細分化
東山小学校	中水利用（洗浄）、自然採光・自然通風・熱負荷の軽減の建物、外壁断熱、気密サッシ、日射遮蔽（庇）、自然換気、再生木デッキ、空気調和設備（高効率パッケージエアコン、センサー機能、集中管理コントローラー、全熱交換器）、節水器具、トイレの擬音装置、高効率給湯器
第十中学校	LED照明、スイッチ回路の細分化
第十一中学校	LED照明、LED誘導灯、スイッチ回路の細分化
東山中学校	LED照明、スイッチ回路の細分化、人感センサー
目黒中央中学校	LED照明、スイッチ回路の細分化

\*LED照明は、ベースライト、ダウンライト、高天井器具、外構を含みます。

### ◆ 緑化の推進

温室効果ガスの吸収作用の保全・創出を図るために、区有施設の改修時等に緑化を行いました。2015（平成27）年度は、2施設に計915m<sup>2</sup>実施しました。

施設名	緑化形式	緑化面積
自由が丘公園	樹木・草地緑化	742m <sup>2</sup>
大岡山児童遊園	樹木・草地緑化	173m <sup>2</sup>
合計		915m <sup>2</sup>

\* 緑化面積は、小数点以下四捨五入

\* 2015（平成27）年度版 めぐろの環境 P66に掲載の2014（平成26）年度実績は東根公園のみに訂正。

#### ◆ 啓発等

職員を対象とした環境研修の実施（開催3回、参加人数70人）や啓発ポスターの作成・掲示を行うことで、職員の意識啓発を図りました。また、エコオフィス活動や地球温暖化対策の関連情報をわかりやすく提供する「めぐろエコ・プラン通信」を作成して、庁内メールで発信しました。

### ● 環境負荷の低減に向けた取組み

#### ■ ごみの排出量と紙の使用量

「ごみの排出量」と「紙の使用量」は、前年度以下に減らすことを目標としています。2015（平成27）年度は、2014（平成26）年度と比較すると、ごみの排出量と紙の使用量は減少し、目標を達成することができました。

<ごみの排出量>

(単位：t)

区分	2012 (平成24) 年度	2013 (平成25) 年度	2014 (平成26) 年度	2015 (平成27) 年度	対前年度比	
排出量	1,268	1,174	1,265	1,106	-12.6%	
内訳	燃やすごみ	1,077	1,003	1,068	934	-12.5%
	燃やさないごみ	166	148	172	145	-15.7%
	資源	25	23	25	27	+8.0%

<紙の使用量>

(単位：万枚)

区分	2012 (平成24) 年度	2013 (平成25) 年度	2014 (平成26) 年度	2015 (平成27) 年度	対前年度比
用紙の購入量	4,429	4,217	4,100	3,862	-5.8%
外注印刷物	5,232	5,211	4,271	4,025	-5.8%

\* 紙はA4サイズに換算しています。

## 2015（平成27）年度の取組み結果に対する評価

区民と学識経験者からなる第三者評価委員会が、めぐろエコ・プランⅡの2015（平成27）年度取組み結果について評価しました。評価結果を踏まえ、今後も環境負荷の低減に努めていきます。

#### （取組み全体に対する意見）

全体の取組みは、改善努力がうかがえ前年度より確実に進んでいるが、温室効果ガス排出量原単位・エネルギー使用量原単位の推移が目標に対し十分とは言えない。無理で非効率と感じる取組みを見直すなど、区全体の業務効率化を図りながら、目標達成に向けて、一層の努力を期待する。